

# 大鹿村議会だより

第15号 平成28年4月15日 発行：大鹿村議会 TEL：0265-39-2001

平成28年3月

## 大鹿村議会3月定例会

平成二十八年三月大鹿村議会定例会が三月七日から十六日までの十日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告四件、付議事件二十八件、議員発議二件で、すべて原案どおり承認・可決されました。請願・陳情は請願一件、要望書四件で、請願一件は採択されました。

### 報告

**報告第一号** 大鹿村税条例等の一部を

改正する条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めるについて

**報告第二号** 大鹿村国民健康保険税条

例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めるについて

▼村民税、特別土地保有税、国民健康保険税の減免申請に個人番号の記載を不要とする改正です。

**報告第三号** 平成二十七年大鹿村一

般会計補正予算（六号）の専決処分の承認を求めるについて

**報告第四号** 平成二十七年大鹿村営水道特別会計補正予算（三号）の専決

処分の承認を求めるについて  
▼村営水道の緊急工事が必要となったための補正です。

### 付議事件

**議案第一号** 議会の議員の議員報酬及

び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第二号** 大鹿村特別職の職員で常

勤の者の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第三号** 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

▼人事院勧告に基づき期末手当の率を引き上げる等の改正です。

**議案第四号** 大鹿村公文書公開条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第五号** 大鹿村個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第六号** 大鹿村人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第七号** 大鹿村手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第八号** 大鹿村消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第九号** 分担金徴収に関する条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第十号** 大鹿村税条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第十一号** 固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例の制定について

**議案第十二号** 大鹿村若者定住促進条例の一部を改正する条例の制定について

▼若者の定義を「四十歳以下」から「四十五歳以下」に拡充すること、結婚祝金事業の創設などです。

**議案第十三号** 大鹿村介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

▼「個人番号」を加えるものです。

**議案第十四号** 大鹿村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について

▼児童福祉法の改正に伴い、新たに条例を定めるものです。

**議案第十五号** 平成二十七年大鹿村一般会計補正予算（第七号）について

**議案第十六号** 平成二十七年大鹿村国民健康保険特別会計補正予算（第三号）について

**議案第十七号** 平成二十七年大鹿村立診療所特別会計補正予算（第三号）について

**議案第十八号** 平成二十七年大鹿村営水道特別会計補正予算（第四号）について

**議案第十九号** 平成二十七年大鹿村介護保険特別会計補正予算（第三号）について

▼実績による増減が主です。

**議案第二十号** 平成二十八年大鹿村一般会計予算について

▼平成二十八年の一般会計は総額一九億一〇〇万円、前年比一九・八％減。昨年度は老人福祉施設の建設等で大幅に増額となっていたので、その分が減額となっています。主な新規事業は別表のとおりです。詳細は「広報おしか」四月号をご覧ください。

**議案第二十一号** 平成二十八年大鹿村国民健康保険特別会計予算について

**議案第二十二号** 平成二十八年大鹿村立診療所特別会計予算について

▼生化学自動分析装置（血液検査装置）を更新します。

**議案第二十三号** 平成二十八年大鹿村営水道特別会計予算について

**議案第二十四号** 平成二十八年大鹿村介護保険特別会計予算について

**議案第二十五号** 平成二十八年大鹿村後期高齢者医療特別会計予算について

**議案第二十六号** 大鹿村過疎地域自立促進計画について

**議案第二十七号** 南信州広域連合規約の変更について

**議案第二十八号** 大鹿村固定資産評価審査委員会の委員の選任につき同意を求めるについて

▼小原寿夫さんが選任されました。

## 請 願

一、へき地教育の充実とへき地級地指定制改善を求める請願書

▼採択されて意見書を提出

## 議員発議

**発議第一号** へき地教育の充実とへき地級地指定改善を求める意見書の提出について

**発議第二号** 放射性物質含有の廃棄物最終処分場建設について慎重な対応を求める意見書の提出について

## 平成28年度主な新規事業

- ・ 番号制度導入に伴うシステム改修
- ・ 結婚祝金
- ・ 文満団地村単住宅整備事業
- ・ 生活支援ハウス沈下対策工事
- ・ 不妊・不育治療補助金
- ・ 村内事業所就職祝金・雇用助成金
- ・ 村外企業雇用奨励助成金
- ・ 「道の駅」検討委員会
- ・ ジオ・エコパークPR事業
- ・ 山村留学
- ・ 福德寺駐車場・北川露頭トイレ整備
- ・ 文化財保存補助金
- ・ 平和学習事業

## 一般質問

○東村邦子議員



**質問** ＊商業活性化で未来を切り開くために

商業の活性化は日常の買い物の利便性ばかりでなく、災害時に中央からの救助物資を待つだけでなく、店舗の在庫の活用、地元の流通経路など村

単独で物資ルートを持保持できる大切なライフラインとなる。島根県のある研究機関の試算によると、おのおのの生活消費の1％を村民それぞれ村内で担えば、地域経済を円滑にすることができるといふ。消費の1％だ。今、議員の間でせめて消費税分程度の日常生活用品の村内消費の実行を心がけていくという機運が高まっている。これらの動き、村内消費の重要性をどのように感じているか。

**村長** 消費税分の村内消費について、

議員皆様方の中での話題になっているとのことだ。非常にいいことではないか。皆様方八人という力なので、村全体にこのことが広がっていくことを心から期待し、できる範囲で応援したいと思っている。消費税分の消費が村内でできれば、随分違うのではないかと期待している。

**質問** 村の商業ひいては産業が枯渇すれば、議会も役場も、極端に言うところ減、なくなってしまうのではないかとこの恐れがある。議員は八名だ。役場職員は特に人数も多いので、その動向は大きく村の経済を牽引する力を持っている。個人消費の1%、ぜひ認識してほしいと思う。

そして、去年活性化のアンケートで集約が出ているが、利便性と品揃えの拡大を考えるのであれば、新たな地方創生事業に盛り込まれている道の駅構想が隠し球の一つになってくれるのではと期待しているが、村長のお考え、構想などをお聞かせいただきたい。

**村長** 道の駅構想ということだが、今議会冒頭のご挨拶で申し上げたように、商業、観光、農業等、六次産業を含めて活性化が期待できるし、また道の駅というネームバリューがあるので、効果は期待できると思っている。これに関しては、今後ハードについてはもち

ろんだが、運営についてもどのようにすることがベストなのか、非常に多くの課題があるということで研究していくことが大事だと思っている。今後、検討委員会を立ち上げて、しっかり研究をしていきたい。

**質問** 検討委員会を立ち上げるという説明があつたが、ぜひ現場の、現在進行形の商店・商業関係の人材を多く入れて、直接現場の声を反映するような事業にしていきたい。

村民の消費活動の意識ばかりではなく、アンケートでは賞味期限切れの商品を売っている店があると、かなり声が出ていた。移動販売や注文販売、週一回安売りの商いをやっているところなど、さまざまな店の努力を帳消しにするようなことのないように、大鹿村全体の店の評価にならないように、最低限の努力をお店の方にもお願いしたい。一人一人が無理なくできること、みんなの力で地域を支えていけるのではないかと、議員、役場職員の、まず第一歩を期待したい。

#### \*林業再生プロジェクトの可能性

**質問** 二月二十五日、根羽村の木のプロジェクトなど地域内木材活用視察に村長も同行された。出席者も十五人を超える関係者が参加した。そのとき

の感想はどうだったか。根羽村の成功の鍵はどこにあると分析されたか。

**村長** 私の感想とすれば、千里の道も一歩からということを実感として感じた。木材というのは植林、下刈り、間伐等の手入れ、最後、成木になったときの活用ということで、長い時間がかかる。もちろん根羽村においては下流域との強い連携交流があつたということと、長い時間の蓄積の大事さを一番感じた。森林組合、村が一体となつて進められてこられたということで、本当に長い期間かかって、一歩一歩積み上げられた成果だと感じた。

**質問** 五十年近く山から離れていた地域でも、一つ間伐材、林地残材の活用はそれなりにできる可能性があると思う。地域内木材活用ということで、間伐材や残材を薪にして軽トラ一杯分を四〇〇〇円から六〇〇〇円で買い取って、地域商店だけで使える地域通貨で支払うシステムだ。そのベースになっているのが、われわれも見学させていただいた特養施設で、建物の建材関係ももちろんだが、薪ボイラーで冬の暖房、薪の安定消費を大きなところで支えている。

今後、大鹿村では、保育所の大幅な改修あるいは建て替えの大型プロジェクトがある。これを手本にして企画し

ていつてはどうか。さらに図書館の拡張など案件があるので、林業にとどまらず、地域内の木材活用ということで、複合的な企画開発が必要な時代、可能性のある時代になってきたのではないかと思います。大鹿村での地域内木材利用の可能性をどう見ているか。

**村長** 見学させていただいた薪ボイラーでは、二〇センチぐらいの丸太を半割で、水分一五%未満ということで熱利用が非常にうまくできるという説明を受けた。また、林内放置の未活用材の利用が住民の手によってでき、なおかつ、それが住民の収入になる。本当に素晴らしい動きを見せていただいたと思っています。

保育所や図書館という建物の関係で提案だが、否定するわけではないが、昼間だけ使う建物に果たしていいのかという疑問がある。特養の場合は二十四時間なので非常に効果があると思うが、何らかの形で使う方向があれば、また赤石荘ではチップボイラーを使っている、その辺も視野に入れなければいけないとは思っている。決してこのままで何もしいないということではないようにしていきたい。

**質問** 林業の中で建材活用の研究・開発は不可欠な要素だ。特に大鹿村は本



当に質の良い木材を生んでいるところだ。加えて、バイオマス燃料エネルギーとして利用する方向も現在盛んだ。さらに加えて、木材を工業原料として、木材自体の成分を研究開発する動きが見られる。今年から伊那谷アグリノーション推進機構に加入されたと聞いているので、大鹿村にも新たな動きが出てくるのではないかと見ている。若手の就農者の中では、木材チップを利用して土壌改良を目指す動きが見られる。改良土壌自体を六次産業として商品化できないかということで情報収集が始まっている。このような新しい動き、研究開発の動きをぜひ後押しして、まずは間伐材、残材を利用して、村内の材木を活用していく。九七％の大鹿村の山が動き出す道筋を柳島村政の中で築き上げていただきたい。

### ○秋山光夫議員



**\*村指定外文化財保存管理補助金について**

**質問** 支給制度は今後の大鹿村にとり大変意義のあるものと考えている。大鹿村では昭和四十七年十月に文化財保

護条例が制定され、文化財調査委員会が設立されて文化遺産の調査が行われ、昭和五十九年一月に大鹿村の集大成ともいえる村誌が発刊された。また平成五年三月には『大鹿村石造文化財』が教育委員会より発刊され、中には非常に貴重な石碑、石神仏等が網羅されているが、数が多すぎて載せきれないものもあったそうだ。長野県立歴史館において二〇一〇年に『歴史の宝庫 秋葉みち』が発行され、その中には福德寺、大磧神社、松平神社、宇佐八幡社等の木神立像が、また宗良親王の『季花集』の歌も多数掲載され、大鹿村の神社の歴史変遷の一覧表、大鹿村の古地図、古文書も数多く保管されている。大鹿村が大変歴史の古い村であることをつくづく感じられる。

大鹿総合戦略の基本方針の立脚点と方向に、「豊かな自然・地域資源、歴史・伝統文化、人情味ある風土等大鹿村の長所・美点に立脚して、それらを継承発展させる方向で、まち・ひと・しごと創生の取り組みを進める」と記してある。村指定、村指定外の文化財保存補助金制度を広く村民に広報していただき、今後も継続・拡充して官民一体で文化財保存を行っていきたいと考えるが、村長のお考えをお聞かせいただきたい。

**【村長】** 文化財を守っていくことは大事なことでと認識している。埋もれているものがあるが、維持・保存がなかなかできないという話を伺っていたので、それに応えられる方策として研究し、今回ルールを作り上げた。予算額についてはいろいろな動向を見ながら対応していく。いきなり大きなものになることは考えにくい。たくさんあるから、たくさんできるといってもいいと認識いただければと思う。

**【教育長】** 昨年十二月に定めた大鹿村文化財保護事業補助金交付要項についてご説明する。主な内容は村指定の文化財以外の文化財の保存・管理について補助の対象とした。歴史的、文化的価値を有する地域の文化財等と定めている。これは自治会など地域の中でその価値が共有されていて、大切に継承されてきたもので、有形無形を問わず歴史的な価値を有する文化的な財産を言う。そして教育委員会が審査を行い、その価値を認めたものが対象となる。また、指定文化財についても、収蔵されている建物等の防災工事や修繕に要する経費も対象となる。対象となる補助事業者は大鹿村内において文化財を保存管理する自治会や住民団体、または教育委員会が適当と認める団体を言う。指定文化財については五〇万円の

上限を設けて、保存に関する事業が十分の十、管理に関する事業が十分の八の補助率で、村指定以外の歴史的、文化的価値を有する地域の文化財等は、三〇万円の上限で、保存に関する事業、管理に関する事業ともに二分の一の補助率だ。対象となる文化財については、大鹿村文化財調査委員会に意見を聞くなどして教育委員会で慎重に審査していく。地域の貴重な財産でもある文化財を将来に保存傳承していくために、村としても支援をしていく。

### ○河本明代議員



**\*リニア工事について**

**質問** JR東海は二月九日の社長記者会見で南アルプストンネル長野工区について、鹿島建設、飛島建設、フジタのJV（共同企業体）と工事契約を締結したことを発表した。工事契約締結をもって「着工」と位置づけたいとし、翌日の地元紙の一面に「南アルプス本格着工」という見出しで報道された。大鹿村ではまだまだ多くの課題が残されている段階であるにもかかわらず「着工」という言葉が使われているこ

とについてどうお考えか。

二月のリニア対策委員会において、JR東海から松川インター大鹿線の道路改良より前に南アルプスのトンネル工事に着工したいというスケジュール案が示されたことをどうお考えか。

今後も説明会の内容に注目しながら必要な対策を求めていくとのことだが、次のステップに進んでいくにあたって村民の理解の度合を村としてどのような形で判断していくお考えか。

**村長** 辞書によると「着工」とは建設を開始することであると記載があった。JR東海では契約の締結が建設を開始することという解釈をしたのだなと思っている。

また、二月五日に示されたスケジュールだが、JR東海の希望だという説明があり、こちら側で改めて問うたときにもそう言っていた。村としての考え方は従前のおりと考えている。

住民の理解の度合の判断だが、これからいろいろな説明会が開かれる。その中の説明で、今までの件、その説明に対する新たな要望、対策の提示を繰り返していくことになると思う。これは今までも申し上げたとおりだ。村の方全員が理解したというところまでは多分無理だと思う。その判断は非常に困難だと思うが、説明を受け、要望を

出し、回答を受けるところで、どこかで判断することになると思っている。そのルー的なものと言われても、なかなか明言することはできないと思っている。

**質問** JRが契約をもって着工という解釈をしたということはそのとおりだが、対外的には観光への影響もある中で、実際に建設を開始することと思われる、遠方の方からは誤解されて不安を感じさせたりする原因にもなってしまう。着工という言葉を使わないような申し入れ、あるいは、まだ実際には工事は始まっていないのだという宣伝、広報を、しっかりとしていく必要があるのではないか。

理解の判断のことは、本当に納得が得られたのか、全員の納得は無理にしても、こういう要望に対して、こういう必要な対策がきちんとなされたので、村は次のステップに進む判断をしたのだということが村民に明確に分かる形にして、ずるずるといつの間にか着工になっていったということにならないように、一つ一つ確認してから進めていきたい。

もう一点、岐阜県でJR東海が行った地下水調査、土壌溶出量調査で、基準値を超す総水銀などが検出されていたにもかかわらず、県に報告していな

かったことが発表された。大鹿村では事業者の調査のみに任せておいて大丈夫なのかと不安を感じた。事後調査やモニタリングの頻度をもっと増やしてほしいといった要望にも現状では応えられていないが、村として独自調査を行っておく必要はないのか。

**村長** 「着工」と言ったり「着手」と言ったり、いろいろ言うので、私たちも何が何なのかというところもある。「着工」という言葉でイメージダウンもあるのかと思う。大鹿村ではこんな工事や調査等をやっているということはホームページには出ているので、そんなご案内もしていただければと思う。

独自調査の件だが、調査の範囲、項目等、非常に多岐にわたる。なおかつ



リニア事後調査・河川の流量調査の様子

非常に専門的なことになるので、村としてそれを網羅したような形で取り組むのは困難かと思っている。調査の結果の公表など求めていくし、今後もしっかりと求めていきたい。

**副村長** 実際の調査は専門の調査会社が行うので、調査の内容や精度などについては信頼できるものと考えている。また、同じデータを持つて同じ環境で協議をしていきたいということが変わっていない。問題となるのは、調査結果の公表方法や内容、共有の方法だと思っている。これは大鹿村だけでなく、豊丘村をはじめ南木曾まで、それぞれの自治体で同じような環境に関する調査が行われている。県の環境部も中心となってJRとも相談していただいて、内容を公表していただくように要望している。その内容については説明会でしっかりと説明していただきたいと思っている。

また、大鹿村においては対策委員会でもいろいろな要望をしている。大気質、騒音、振動についてはそれぞれの非常口ヤードを含め、住宅地や小学校の周辺などでモニタリングなどを定期的に行ってほしいということで要望しているが、まだしっかりとした内容は示されていないので、それらについてもしっかりと確認していきたい。



地下水、水資源については、平成二十六年の十二月から事後調査ということで実施している。大河原地区すべての関係する部分について、事後調査が三五か所、月一回行われている。それからモニタリング調査が一二か所、年二回行われる。それから表流水の調査が三か所で、工事開始一年前からという中で行われている。これらの調査結果について公表の方法が示されていないので、しっかりと現状についても公表するように求めている。

大気質の調査は、昨年一か月ほどやったが、来年度は県の一年間借りられる



3月17日に県の大気環境測定の移動コンテナ局が大河原地区に設置されました。

機器があり、大鹿村で設置ができる方向になっている。大河原の国道一五二号沿い、集落の中に一年間置いて、現状の大気質の調査をやっていきたいと考えている。それらも含め、いろいろな調査結果の共有をして、対策を完全なものにしていきたい。

#### \*CATVのFTTH化について

**質問** 大鹿創生総合戦略の「多様な人材との連携」の具体的な事業として「インターネット網を光ケーブルにより整備」と書き込まれており、過疎地域自立促進計画や二十八年度の新規・主要事業一覧にもCATVのFTTH化（光ケーブル化）が記載されているが、二十八年度の当初予算には盛りられていなかった。この事業は本年度に実施される見込みなのか。あるいは、いつ頃実施される計画なのか。

総合戦略の中では「多様な業種・人材を呼び込むため」とされているが、それだけでなく、村内の広報や観光、福祉分野、教育分野など、様々な分野で可能性を広げるものだと思うが、村内でインターネット活用を進める方策についてどのようにお考えか。

**村長** 過疎地域自立促進計画の中の「交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進」の工という項目に「村外

へ向けて光ケーブルの整備及び村内のケーブルの光化を検討していく」とある。なので、計画として検討していくという扱いになっている。

インターネットの活用範囲は非常に広いとは思っている。そのことは重く受けているところだが、村のケーブルテレビの施設ができたのは、当時いくつもあったテレビの共聴組合の維持が困難で、テレビの視聴ができにくくなってくるこの対策として村でケーブルテレビ化した。当時、今のような高度なものになるという予測もなく、それまでの対応は考えていなかったと思う。今後さらに専門性の高い要求が出てくると考えられ、村のケーブルテレビの中でそれを常に満足して維持稼働させていくのは自信が持てないというのが現実のところだ。数字的に見ても、多くの費用がかかる。インターネットを利用して人は三割前後なので、そのものに対して非常に高額な費用を入れるのがどうかということも検討の中に含まれてくる。

しかしながら、この高速化については放っておくわけにはいかない。あくまでも高速なので、慎重に研究・検討とかでなく、村のケーブルテレビを活用していくのか、民間の施設を何とかすることも考えながら、現在多方面へ

の情報収集に努めている。できるだけ早く方向は出したい。

#### ○齋藤栄子議員



\*リニア工事に伴い商店の活性化について

**質問** 今、大鹿村の小売業者の環境は、卸業者が廃業する中、いかに安く良い商品を仕入れ、村内で商売を継続していくかが課題だ。そんな中、採算の合わない商品もあるなど厳しい現状で頑張っている。今回リニア工事が行われることで、ビジネスチャンスを生かしていきたいという気持ちがある。リニア工事関係で聞いたところによると、システムができており、調理人や仕入れ業者が付いてくるという情報も入ってきている。厳しい現状の中で歯止めをかけるのは難しいとは思っているが、少なくとも村内の小売業者にいち早く情報を流していただきたい。村として業者に対して何らかの策を出しておられるか。

**村長** リニア工事をビジネスチャンスととらえるということで、そろそろこのような方向に向く時期かなという気

がした。この件については対策委員会の中でも、地元の原材料の利用等については強く要望しているところだ。JR東海との話の中では具体的な形はまだ出てきていない。工事業者が決まり、今後、事務所や宿舎についての具体的な話になってくる。今のところ食材や物品等の具体的な話はあまり出てきていないが、そういうものが出てきて情報として出せるようになれば、商工会等を通じて伝えられるよう研究していきたい。

#### \*女性防災組織作りについて

**質問** 全国の自治体では近年消防団の定員不足が続いており、今後も高齢化が進むことにより定員の確保がますます厳しくなっている状況がある。そうした中、女性消防団として定員数の確保とともに、女性ならではの特性を生かした活動を展開している自治体が増えてきている。本村においても消防団員が現在実働人数三一人と減少している。年明け早々、土手火災があったが、消防団が駆けつける前、消火栓が開けられる人がおらず、バケツリレーでの初期消火だったとお話を聞き、年に一度の消火訓練はしていても、いざとなると難しいものだと感じた。大鹿村では女性消防団という組織は今は無理

だと思うが、基本的な消火活動をはじめ、広くは災害時の自助、共助、公助の勉強をし、活動のできる七十代以下の女性自主防災組織の検討が必要ではないかと思うが、村長のご意見をお伺いしたい。

**村長** 大鹿村でも消防団員が非常に少なくなっているが、ここ何年か、団長さんはじめ現団員の努力により新たに多くの方に入団していただいた。しながら、まだまだ対象者に協力いただいていない現状がある。ぜひ互助、共助、互いに助け合うという気持ちの中で、消防団に入っていたきたいと思っているところだ。ご質問の件は非常に大事ななことかと思っている。毎年防災の日を中心として自治会単位で自主防の訓練をお願いしているが、マンネリ化しているのも現実かと思う。自治会の中での訓練等、議員の考えをその場で出していたくのも大事かと思うし、今言われたようなことをしっかりと何う中で担当課で研究させたい。

#### **総務課長**

女性消防団員の活動の任務

の主なもの、火災予防や災害予防の広報、啓蒙・啓発活動が主な活動と認識している。下伊那の女性消防団員を設置している町村もそのような広報や啓蒙・啓発が主な任務と聞いている。救護活動も女性消防団員の任務と聞いて

ているが、実際の火災現場、災害現場には出勤はしていないのが現状だそう。基本的な消火栓や消火器の操作等については、九月に行われている防災訓練等でよく理解していただいて、訓練の中で、さらに自治会組織の中で、それぞれの助け合いの役割を確認していただくようなことをお願いしたい。ご質問の女性の組織作りということになると、なかなか難しい面もあるので、それぞれの方の考えや思いを聞く中で判断してまいりたい。

#### **質問**

防災の訓練などで日赤奉仕団があり、訓練の際六〇名を超す団員が参加されているが、その中で子育て世代、若い女性の参加が少ないのが気になる。若い我が子や家族を守るためにも、若い女性の参加を希望したいと思い、新しい組織作りを提案させていただいた。今、消防団に入らない青年も増えており、これからは女性の存在がますます重要になってきている。私も訴えながら頑張っていきたいので、村も頑張っていたきたい。

#### ○北島千良穂議員



\*リニア工事による水枯れ水道対策について

**質問** 昨年の暮れに大原水源の近くで地滑り工事のボーリングが行われ、大原水源に水不足が生じ、役場職員が昼夜四、五日間苦労されたのは記憶に新しい。リニアトンネルは青木川から小渋川の間は地層が破碎帯だ。その地層は崩れやすく水は通しやすいと聞いているので、トンネルが破碎帯を通過することにより、あの山の出水、松山沢、大原水源の水枯れが起きるのではないかと本当に心配だ。水枯れをしたらJRが対処してくれるので良いではなく、水道に絡むことなので実践できる対策を考えてほしい。

#### **村長**

確かに上青木地籍から北の原付近にある水源については心配があると思っている。JRにおいても慎重に扱っており、水量など調査を行っていると聞いているし、該当範囲については事後調査やモニタリングの対象となっているので、非常に重く見ているところだ。工事に際しては細心の注意を求めているし、実際に状況の変化については、その情報をきちんともらうようにすることが大切であると考えて、常々相手に伝えている。結果として害が発生すれば、JRに対処を求めることになる。対策と言うが、現段階でどこに

どう対策をするか等、具体的には思いつかないが、トンネルの施工業者の持つノウハウも活用するなど、情報を得る中で、その場に即した対応を取っていく必要があると思っている。

**質問** もし大河原の水源が水枯れしたら、青木谷の東側では水源を探すのが大変難儀なことだと思う。上・下市場など昔のように井戸がないので、いざ水枯れとなったときには本当に村の職員が苦労するのではないか。例えば西側にはどこに水源があるとか、こういうときにはこういう対策をしてみたら、そのときに右往左往しても始まらないと思うので、ぜひ理事者として頭の中に置いていただきたい。

**村長** 大河原簡易水道の一番の水源である引の田水源は、JR東海が過去の経緯から実績があるといわれている高橋の水文学的方法による予測検討範囲という中からは外れている。とりあえず、あそこの水については現在のところは確保できるのではないかと思っている。昨年暮れの水のことについては、地滑りは水によって誘発されるということ、地滑り工事の水抜きをした結果であると思っている。リニアのトンネルがどこまで影響があるか分からないが、一応、引の田の水源については

今のところ大丈夫ではないかと考えている。

また、水源については、今まで活用できる良いものはかなり活用してきている。今後、西側の水といったときには、ほとんど浄水場をしっかりと造らなければいけないとか、大きな課題になってくるので、多分、井戸を掘ってポンプで揚げるようになってくるのではないかと思う。現状の中で、それではすぐここで対策として掘るかということにはなっていないと思うので、できる限りいろいろな変化の情報を早め早めに得ることによって、対策を考えていくことになるかと思う。

**\*リニア工事の宿舍の土地利用について**

**質問** 大鹿村にもう工事をする会社に来て、宿舍建設の土地を交渉していると噂に聞いたが、承知しているか。四〇〇人ともいわれる人が入ってくる、それだけの人が入ってくるには何か所かの場所が必要と聞いた。村にも土地探しを頼んだと聞いたが、本当か。

大鹿村には平らな土地は少ない。もし農地を十年間も貸せるとしたら、高齢化の進んだ大鹿村では十年後に返してくれても、地主は再び農業はできないのではないかと心配だ。農地を利用

するとしたら、十年後に跡地利用ができるように対策まで考えて指導してほしいが、いかがか。

**村長** JR東海発注のリニア中央新幹線南アルプス工区の工事契約が二月に成立している。建設業者が決定して一か月余となった。業者による宿舍の設置場所についての相談は受けている。ただ、この件については、今まで村対策委員会ともに、作業員宿舍等については村外でなく村内に設置し、村内の商品等の利用、また通勤車両を減らすことを要望してきている。なので、相談を受けたことに関しては、これからも対応はしていくことになる。村が土地を探すことについては頼まれてはいない。この場所が候補地だということがあつて、所有者への案内、具体的な課題等への対応について助言は行っている。

確かに希望されている土地は農地だ。また、一ヘクタール近い土地が求められており、ご懸念のとおり十年後の農地の返還後の跡地利用については大変気になるところだが、農地法上の決まりもあり、基本的には農地に戻ると思っている。現状への復帰は農地というのが原則だ。ただ十年後、経営する、しないというのは所有者の選択になるので、ご理解お願いしたい。

## 議会報告会&懇談会を開催します！

○4月25日（月） 午後2時～ 鹿塩地区館

○4月26日（火） 午後7時～ 交流センター

どちらでもご都合のよい会場へお出かけください。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。